

グループディスカッション ワークシート（要点まとめ） グループ名:A

【テーマ】「大人から子どもまで障害のある方を理解し支え合う武蔵野市を目指して
～実現のために自立支援協議会ができること～」

ワーク1：「各部会の活動報告を受けて」

- ・各部会共通して「つながる」がキーワードになっている。退院する際に地域とどう繋がるか、当事者が一般の方とどう繋がるかなど、様々な「つながる」があると感じた。
- ・部会間での連携により、新しい視点や取り組みが生まれるのではないかな。
- ・「つながる」「そのままの自分でいられる場所」という言葉が印象的だった。
- ・地域移行部会の活動が具体的かつ積極的で良かった。
- ・プレ地域移行（動機付け）に対する報酬を出している自治体もあるので、武蔵野市も取り入れたらどうか。
- ・入居支援について、（国土交通省の）大家への補助等の仕組みがあるので、居住支援協議会等を通してそうした制度を周知していくことも有効だと思う。中野区の事例が参考になるのではないかな。
- ・当事者を中心として各部会が繋がっていると感じた。

ワーク2：「今後の協議会活動に向けて（課題と目標）」

ワーク1を踏まえ、今後本協議会が取り組むべき課題と目標などを意見交換する

- ・日頃の支援の中で、ライフイベント（親の病気をきっかけに一人暮らしになる等）という視点から支援を考えることが必要だと感じている。
- ・子どもや重度障害者への支援について、日頃はそのような事例に触れることが無いので、自立支援協議会等を通して事例に触れることで、どのような支援ができるか考えるきっかけになった。
- ・当事者や家族に対して成年後見制度について案内することがあるが、成年後見制度には法定後見制度や任意後見制度がある点、民法改正が予定されている点にも留意が必要である。
- ・日頃の支援の中で、ライフステージを超えた支援にどこまで対応できるかが重要だと感じている。
- ・ライフステージ、ライフスタイル、ライフイベントというように視点を広げていくことも大事だが、焦点を絞って議論することも大事だと思う。自立支援協議会の他にも、民生児童委員協議会や在宅医療・介護連携推進協議会、青少年問題協議会等、様々なライフステージごとの協議体があるので、無理に対象を広げずに、既存の協議体を繋げるという視点も必要だと思う。
- ・日頃の支援の中で、保護者からは親なき後の心配の声を多く聞く。どこに頼ればいいのかわからないという声を聞いた時に、どう答えればよいか迷う。
- ・地域自立支援協議会の委員は、2年という任期が適切なのか検討が必要だと思う。
- ・大人から子どもまで様々な事例を共有することで、共通点が見えてくるのではないかな。

- ・会議の時間帯について、夜間だけではなく昼間や 17 時からの開催等、誰もが参加しやすい協議会の在り方を検討すべきではないか。
- ・2時間の会議は負担が大きいので、90 分に短縮しても良いのではないか。
- ・子どもの支援について検討する場合、夜間の会議では、当事者である親は参加できない。
- ・全体会のように、部会を超えた情報共有の場があると良い。
- ・差別解消・住まい等、テーマが決まっているようで、とても範囲が広い。どのような障害やライフステージに焦点を当てるかを定めるまでに時間を要している。あらかじめ論点を絞ることでより具体的に話し合いができると思う一方で、どのような方に焦点を当てるかという話し合いにも意義があると思う。
- ・国等の入居支援の補助事業についての周知や、庁内の各協議体を繋ぐ役割は市がもっと積極的に担ってほしい。